

ぎのうさくべえ
義農作兵衛年表

わ れ き 和 暦	せい れ き 西 暦	年 れ い	できごと
げんろく 元禄 元年	1688年		つづい 筒井村（今の松前町筒井）のまずしい農家 <small>のうか</small> に生まれる。
しょうとく 正徳 元年	1711年	23さい	タマとけっこんする。
正徳 2年	1712年	24さい	母、ツルが病 <small>ひょうき</small> 気でなくなる。
正徳 4年	1714年	26さい	ちやうなん きいち 長男、作市 <small>さくいち</small> が生まれる。
きやうほう 享保 2年	1717年	29さい	ちやうじよ 長女、カメ <small>かめ</small> が生まれる。 40さいくらいまでに、作兵衛はよく働 <small>はたら</small> き、自分の田畑 <small>じぶん</small> （自作地 <small>じさくち</small> ） をおよそ33アール、地主 <small>じぬし</small> からかりている田畑 <small>たはた</small> （小作地 <small>こさくち</small> ）をおよ そ15アール <small>も</small> を持つようになる。 ※ 1アール・・・一辺 <small>いっぺん</small> が10メートルの正方形 <small>せいほうけい</small> の面積 <small>めんせき</small>
享保16年	1731年	43さい	つま、タマが病気でなくなる。
享保17年	1732年	44さい	西日本は、5月ころからつづいたの長雨 <small>ながあめ</small> や洪水 <small>こうずい</small> 、ウンカ <small>たいりょう</small> の大量 発生などで米や麦などの作物が育たず、松山藩では、およそ3500 人がうえ死 <small>うえし</small> をした。（享保 <small>きやうほう</small> の大ききん） 6月、父、作平 <small>さくへい</small> がうえ死をする。 8月、長男、作市がうえ死をする。 9月23日 作兵衛は麦種をのこし、うえ死をする。 10月、長女、カメ <small>かめ</small> がなくなる。 12月、松山藩 <small>はん</small> の指示 <small>しじ</small> で作兵衛 <small>ぼひ</small> の墓碑 <small>ぼひ</small> がつくられる。
あんえい 安永 5年	1776年		松山藩 <small>はん</small> のとの様、松平定静 <small>まつだいらだきよ</small> は、作兵衛の生き方を後の世 <small>のちよ</small> にも伝え るために、「義農」という名前をつけ、碑をつくらせる このことから「義農作兵衛」とよばれる。
めいじ 明治14年	1881年		義農神社が建てられる。
たいしょう 大正 2年	1913年		義農精神 <small>せいしん</small> をうけつぐためにつくられた「義農会」により、 頌徳碑 <small>た</small> が建てられる。見返り石 <small>みかえ</small> には、内大臣 <small>ないだいじん</small> であった 平田東助 <small>ひらたとうすけ</small> の文がきざまれている。 ※「頌徳碑」・・・世 <small>よ</small> のため人 <small>ひと</small> のためによいことをした 人 <small>ひと</small> をほめたたえ、感謝 <small>かんしゃ</small> し後の世にも伝えるための碑 <small>ひ</small>
しょうわ 昭和32年	1957年		今の義農神社が建てられる。義農公園がつく られる。毎年、4月23日を義農祭日として、 せい大 <small>せい</small> に供養やお祭りがおこなわれている。

